

## はじめに

*Diversity in Japan* は私たちが何年も前から書きたいと考えていた本です。日本に長く暮らしてきた私たちはここを home と考えており、日本が成長して調和の取れた本当に多様な文化になるには、この国の若い人たちがここに暮らす様々な種類の人たちのことをもっと理解する必要がある、とずっと感じてきました。

私の子供たちはまだ小さかった頃、車椅子の生活を送る男性と仲良くして、その車椅子によく乗せてもらっていました。子供たちにとって彼は障害のある人ではなく、素晴らしい移動手段を持った素敵な人でした。私自身が特に気に入っている体験の一つは、友人のある女性が息子さんに「英語のことを聞きたいならデボラさんに聞けば」と言ったところ、「なんで？」という返事が返ってきたという話を聞いたことです。彼にとって私は小さい時から知っているおばちゃんの一人でしかなく、私のことを外国人とは思っていませんでした。この時私は、社会を構成する様々な人たちを受け入れ、慣れ親しみを持つには、若い時に学ぶことが必要なんだと気がきました。そしてそれは英語を学ぶことと共に、この本の主な目的なのです。——岩渕デボラ

今年の夏、息子と一緒にニューヨークへ行く機会がありました。私は多様性が変わらず息づいているのを見て、いつも通り嬉しくなりました。マンハッタンを歩きながら耳に入ってくるヘブライ語、中国語、イタリア語が何かニューエイジの交響曲のように聞こえました。私が知っている、そして愛しているエスニック・レストランはどれも健在で、これと一緒に一般的に「フュージョン・レストラン」として知られている新しいマルチエスニックな店も多くありました。このような新しい融合は、複数の文化がそれぞれの本質をそのままに保ちながら混ざり合い、しかもそれを楽しむことができるということを示す良い例です。多様性の明らかな可能性をこの日本で自分の生徒たちに教えようという新たなエネルギーと意気込みを得て、私は帰国しました。——内田パメラ

本書の著者である私たちは二人合わせて42年間日本に暮らし、また二人と

も長く英語を教えてきました。エッセイの執筆・選択に当たっては、自分たちが教えてきた生徒の英語レベルを念頭に置きました。エッセイはそれぞれ、大学の授業一時限分に合わせた長さで難易度になっています。本書の終わりにある、入念に書かれた注釈は生徒が予習するのに有効でしょう。読んだり単語を調べるのに長い時間がかかると、生徒が一度に取り組み、理解することができるのは数行が限度であり、エッセイ全体の内容を見失ってしまうことが多いものです。私たちの目的は、生徒が内容を十分な速さで読んで理解することができ、授業が始まる時には全員が内容を理解してディスカッションをする準備ができていようにすることです。各章の終わりにある練習問題は理解度を確認し、ボキャブラリーを増やすのに役立つでしょう。そして最後に、エッセイの内容が、10代や20代初めの生徒から英語力を伸ばすために勉強を再開しようという年齢がもっと上の人たちまで、幅広い読者の関心と好奇心を最大限に高めることを私たちは心から期待しています。

この本のためにインタビューに応じてくださった方々、そしてその他の記事・作品の作者と主人公の方々全員に感謝し、また人生を垣間見る機会を与えてくださり、写真を提供してくださったことにお礼を述べたいと思います。磯崎アンナさんと岩渕愛さんには調査での援助と執筆での貴重な助言に、小川由香さんには丁寧で的確な注釈と翻訳に、そして金星堂のとても親切で理解ある編集者、嶋田和成さんに感謝します。

2006年初秋 群馬県前橋市にて

内田パメラ  
岩渕デボラ